

令和6年度 あだちっ子歯科健診※実施結果報告書

あだちっ子歯科健診は、全ての年少児（4歳）～年長児（6歳）を対象に、「統一基準」「丁寧な受診勧奨」「結果の集計・分析・フィードバック」をセットに実施している。※ 概要はP13へ
令和6年度の実施結果について、以下のとおり報告する。

令和6年度 あだちっ子歯科健診実施結果報告書・目次

1 令和6年度施設参加率と受診率	P 1
2 令和6年度あだちっ子歯科健診結果【主な結果】	P 2
（1）乳歯にむし歯がある子どもの割合は、年少児を除き、前年度より減少	
（2）未処置のむし歯がある子どもの割合は、年中児が微増	
（3）施設種別 未処置のむし歯がある子どもの割合（R4～R6 年度比較）	
3 あだちっ子歯科健診 10年の成果と課題	P 4
4 令和7年度の主な取組	P 8
5 糖尿病対策アクションプラン2－歯科口腔保健対策－進捗状況	P 8
6 資料編	P 9

1 令和6年度施設参加率と受診率

（1）教育・保育施設の参加率は、8年連続100%（図1）

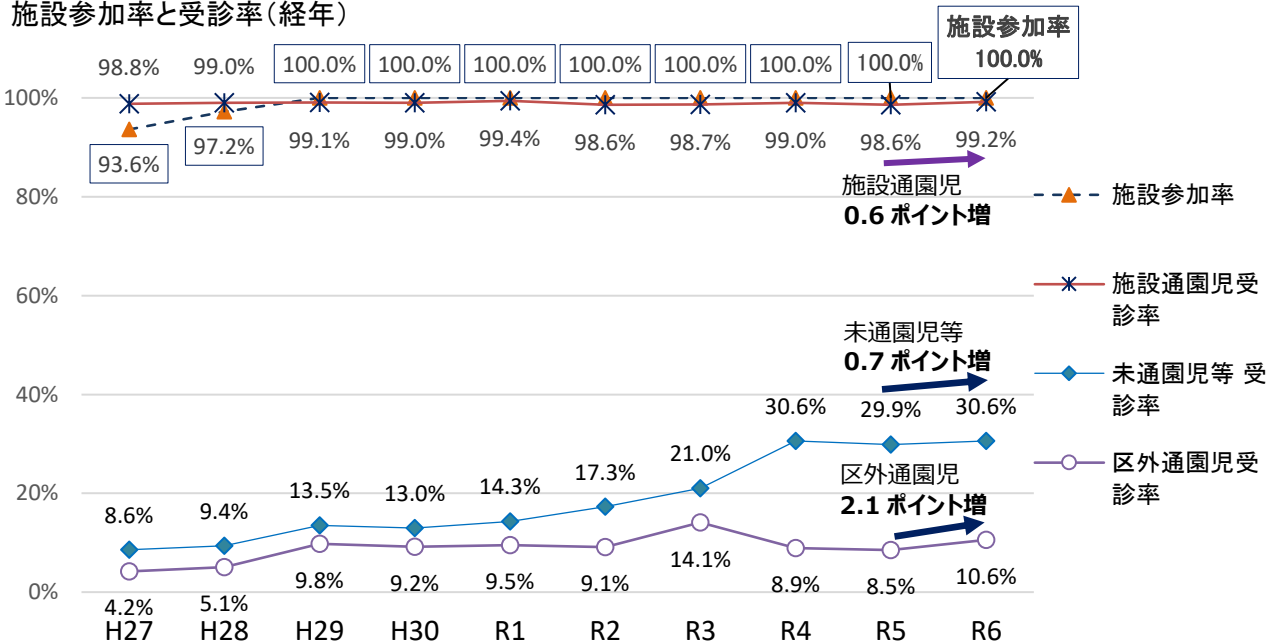
全216施設（前年度±0）で実施し、13,275名が受診した。

（2）歯科健診受診率は、施設通園児、未通園児等ともに増加した（図1）

施設通園児の受診率は99.2%（前年度0.6ポイント増）であった。

家庭保育又は認可外保育施設（認証保育所を除く）、企業主導型保育施設、児童発達支援センター等や区外の教育・保育施設に通っている子ども（以下、「未通園児等」という。）のうち、区外通園児を除く受診率は、3か所の認可外保育施設に加え、新たに発達支援施設に歯科医師が赴いて歯科健診を実施したことにより、30.6%（前年度0.7ポイント増）であった。

（図1） 施設参加率と受診率（経年）

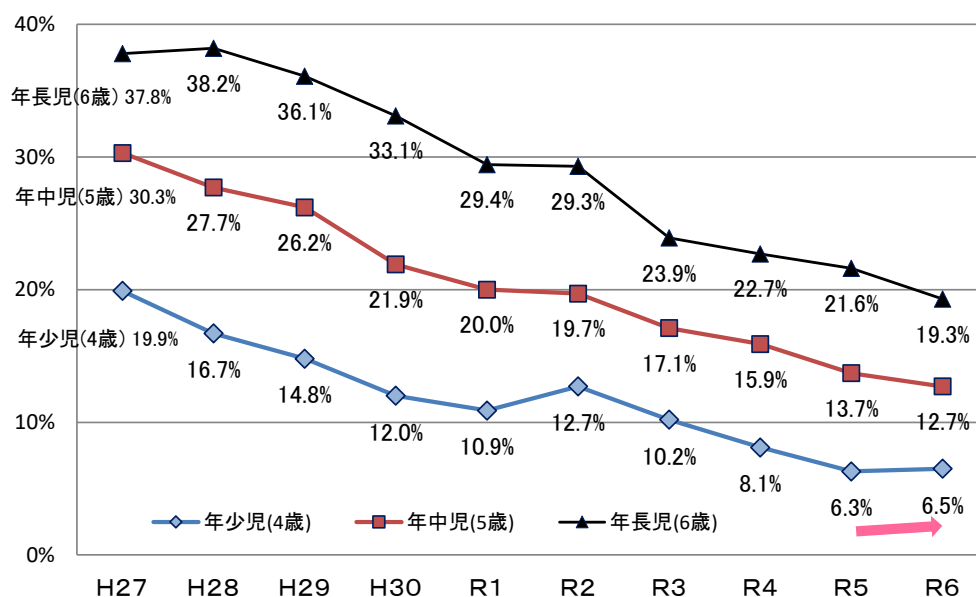


2 令和6年度あだちっ子歯科健診結果【主な結果】

(1) 乳歯にむし歯がある子どもの割合は、年少児を除き、前年度より減少

事業開始当初(H27年度)からみると、年長児(6歳)は18.5ポイント、年中児(5歳)は17.6ポイント、年少児(4歳)は13.4ポイントと大きく減少している。

(図2) 乳歯にむし歯がある子どもの割合(むし歯がある子どもの割合は、処置歯も含む)

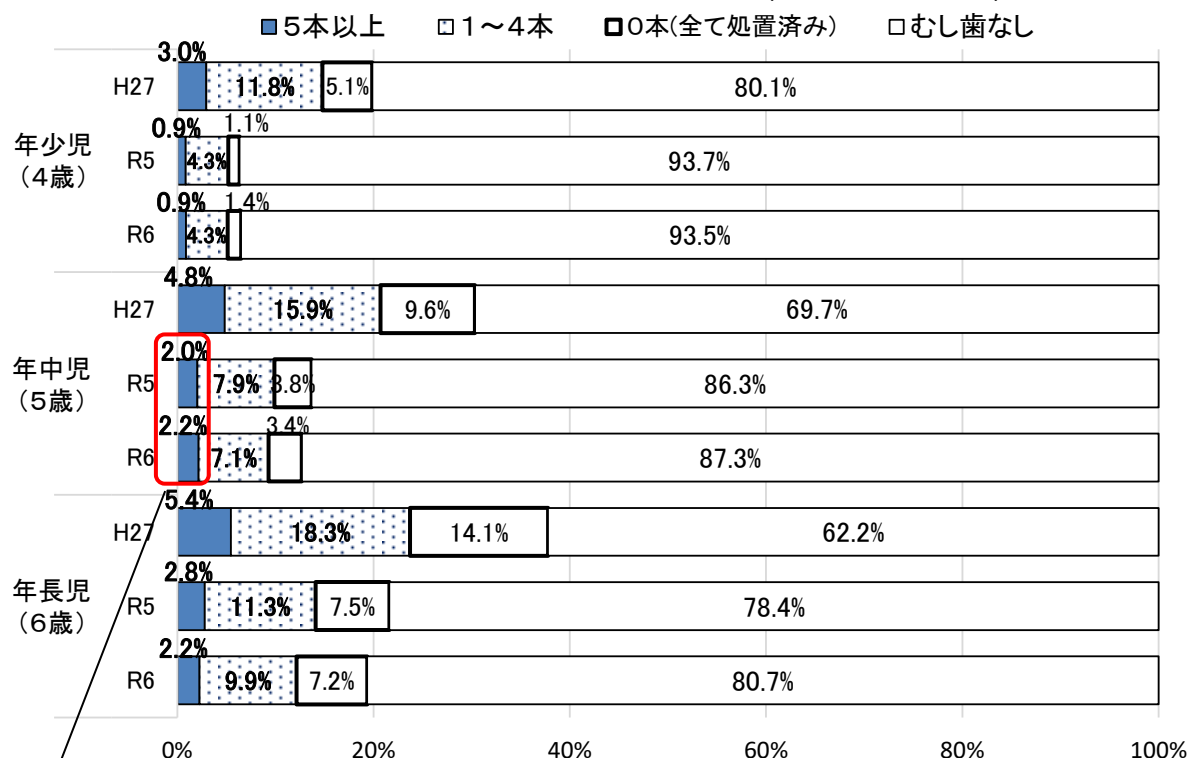


※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため秋に歯科健診を実施

(2) 未処置のむし歯がある子どもの割合は年中児で微増

未処置のむし歯が5本以上ある子どもの割合は、平成27年度からはおよそ半減しているが、前年度との比較では、年中児は0.2ポイント増加している。

(図3) 未処置のむし歯がある子どもの割合(H27・R5・R6年度比)



「未処置のむし歯が5本以上ある子どもの割合」は、
年中児のみ、前年度より増加している。

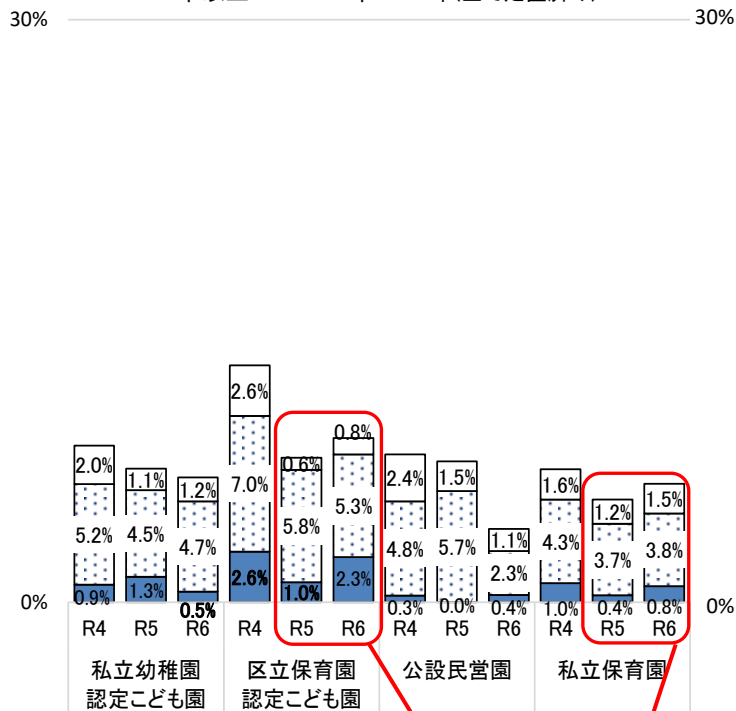
(3) 施設種別 未処置のむし歯がある子どもの割合 (R4、R5、R6 年度比較)

年齢別・施設種別に「未処置のむし歯がある子どもの割合」の年次推移をみると、6年度の5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合は、区立園・公設民営園で1ポイント以上増加している年齢がある。

(図4) 年少児 (4歳)

未処置のむし歯がある子どもの割合 (年少児・施設種別)

■ 5本以上 □ 1～4本 □ 0本(全て処置済み)



年少児

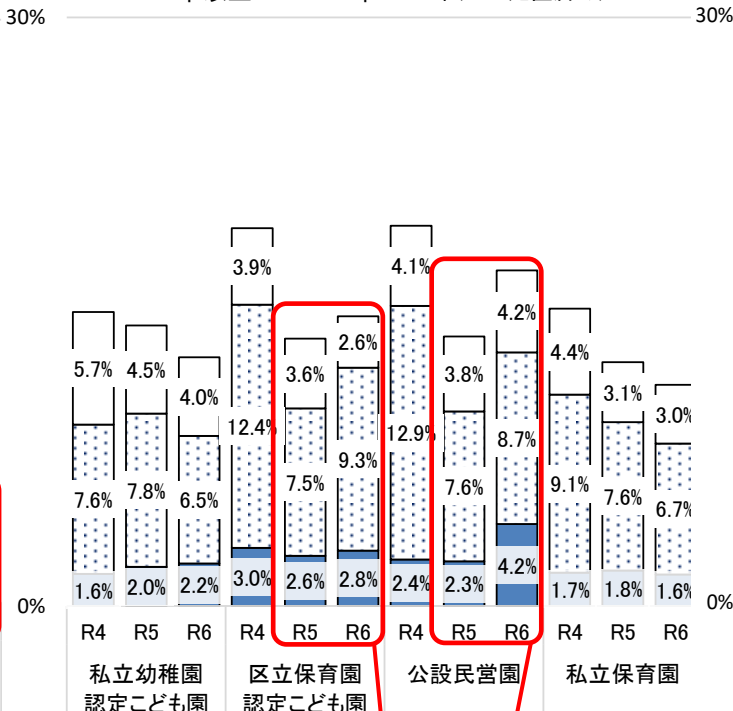
区立園・私立保育園は増加

区立園の5本以上未処置のむし歯がある子の割合は1.3ポイント増加した。

(図5) 年中児 (5歳)

未処置のむし歯がある子どもの割合 (年中児・施設種別)

■ 5本以上 □ 1～4本 □ 0本(全て処置済み)



年中児

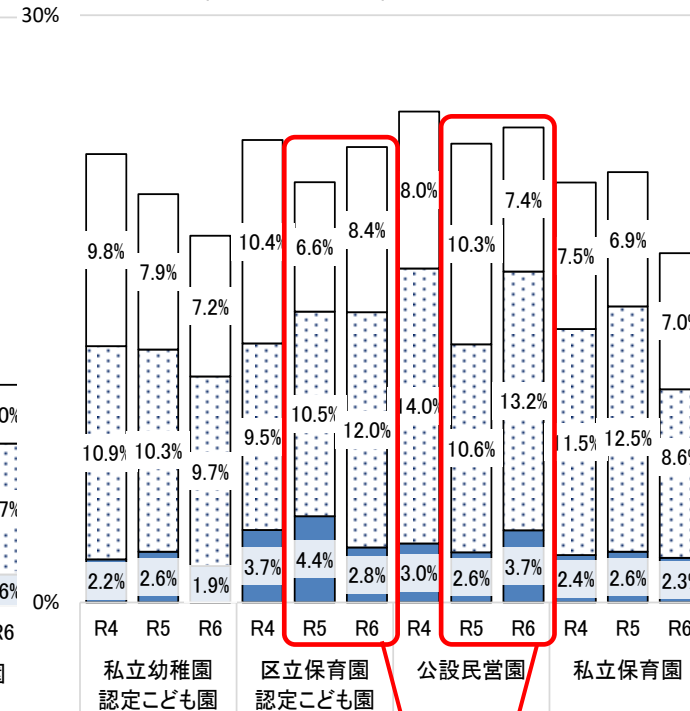
区立園・公設民営園は増加

公設民営園の5本以上未処置のむし歯がある子の割合は1.9ポイント増加した。

(図6) 年長児 (6歳)

未処置のむし歯がある子どもの割合 (年長児・施設種別)

■ 5本以上 □ 1～4本 □ 0本(全て処置済み)



年長児

区立園・公設民営園は増加

公設民営園の5本以上未処置のむし歯がある子の割合は1.1ポイント増加した。

3 あだちっ子歯科健診 10年の成果と課題

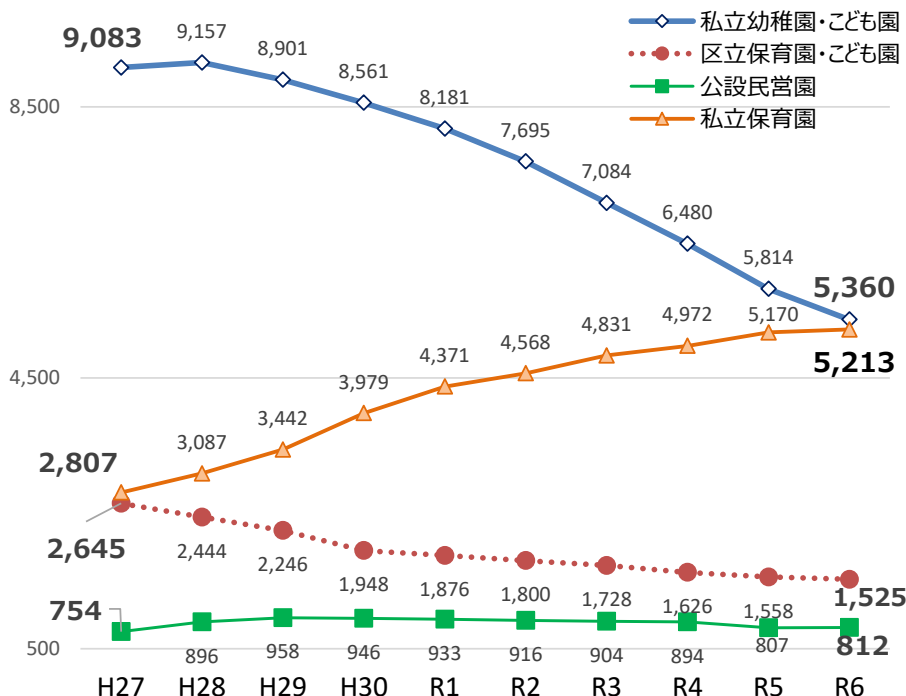
(1) 歯科健診受診者数およびむし歯り患率の推移【4歳(年少児)から6歳(年長児)】

ア 歯科健診受診者数の推移(認可保育園・私立幼稚園・認定こども園)

私立幼稚園が減少、私立保育園が増加している。受診者数は2,379名減少した。

(図7)認可保育園・私立幼稚園・認定こども園の受診者数の推移

※ 受診者数は、区外在住者を含む
認証保育所を除く



【参考】教育・保育施設実施数
(H27)148 → (R6)204

私立幼稚園 (H27)50 → (R6)49

私立保育園 (H27)49 → (R6)111

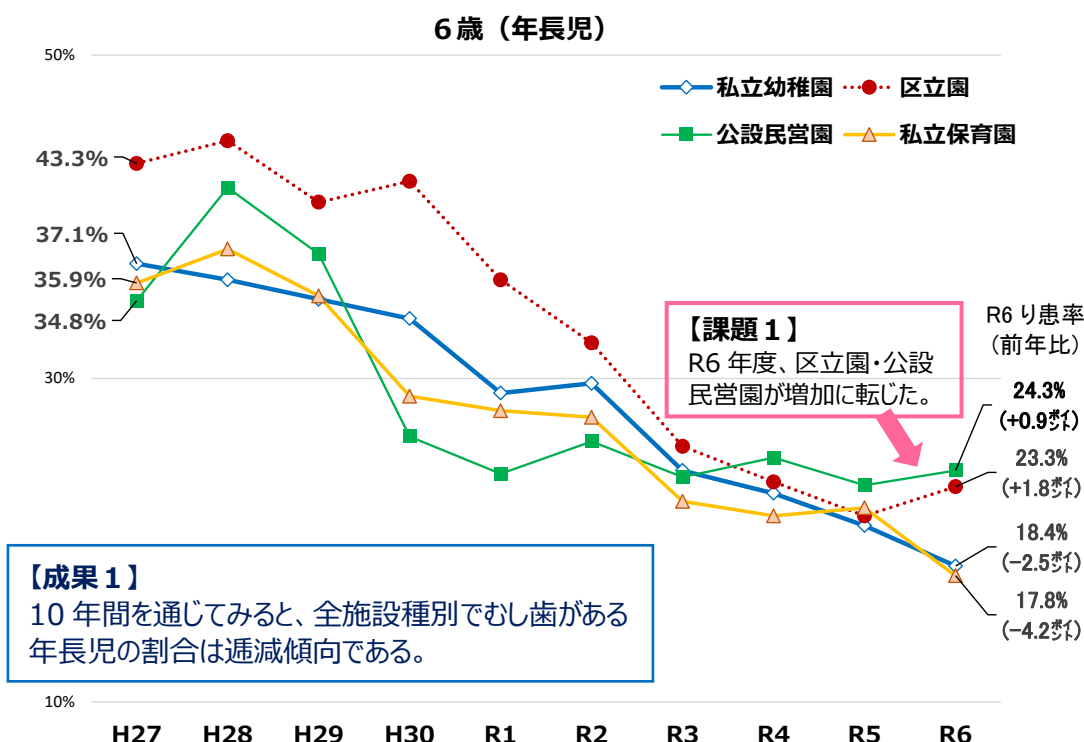
区立園 (H27)36 → (R6)30

公設民営園 (H27)13 → (R6)14

イ 施設種別・むし歯がある6歳(年長児)の割合の推移

全施設種別で「むし歯がある6歳(年長児)の割合」が減少したが、令和6年度は、区立園・公設民営園のり患率が増加に転じている。

(図8)施設種別・むし歯がある6歳(年長児)の割合の推移



【課題1】

R6年度、区立園・公設民営園が増加に転じた。

R6り患率
(前年比)

24.3% (+0.9%)

23.3% (+1.8%)

18.4% (-2.5%)

17.8% (-4.2%)

【成果1】

10年間を通じてみると、全施設種別でむし歯がある年長児の割合は逡減傾向である。

【参考】
10年の成果

公設民営園
-10.5%

区立園
-20.0%

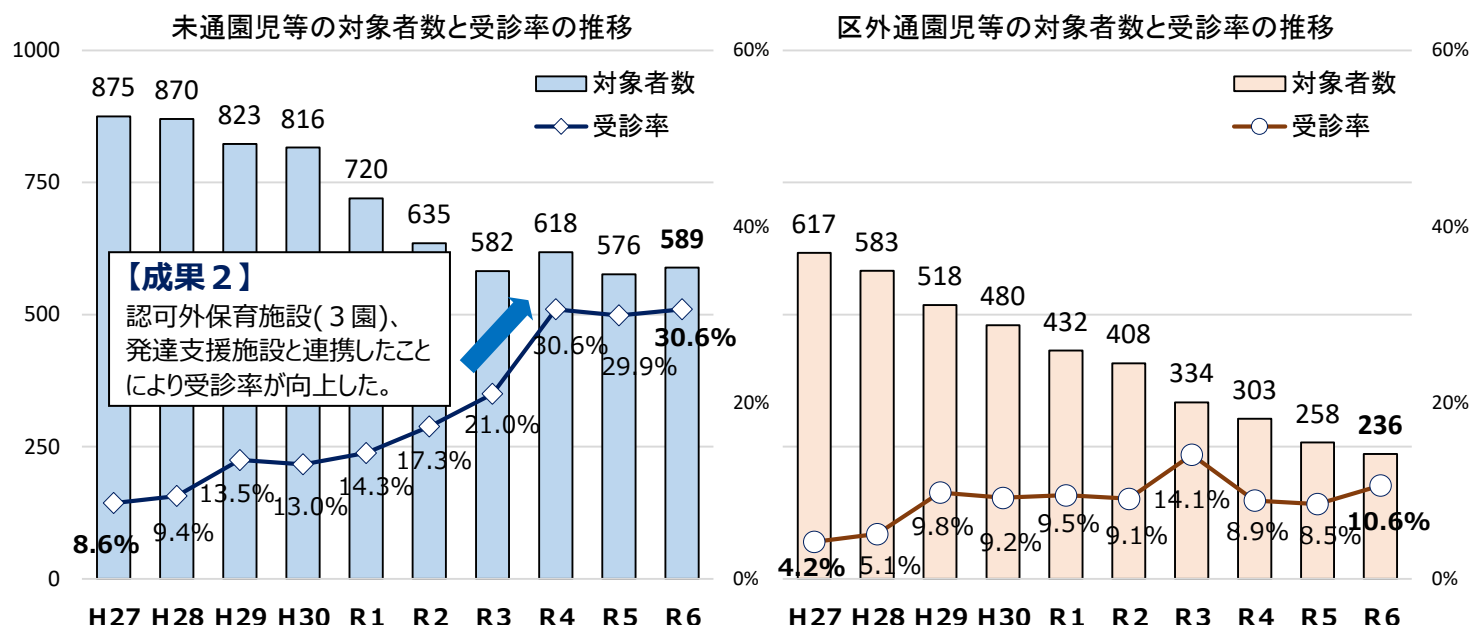
私立幼稚園
-18.7%

私立保育園
-18.1%

ウ 未通園児等の歯科健診受診率の推移

認可外保育施設 3 園 (R4～) および発達支援施設 (R6～) に歯科医師が出向き、歯科健診を実施したことにより受診率が約 10 ポイント向上したが、依然として低い状況にある。

(図9)



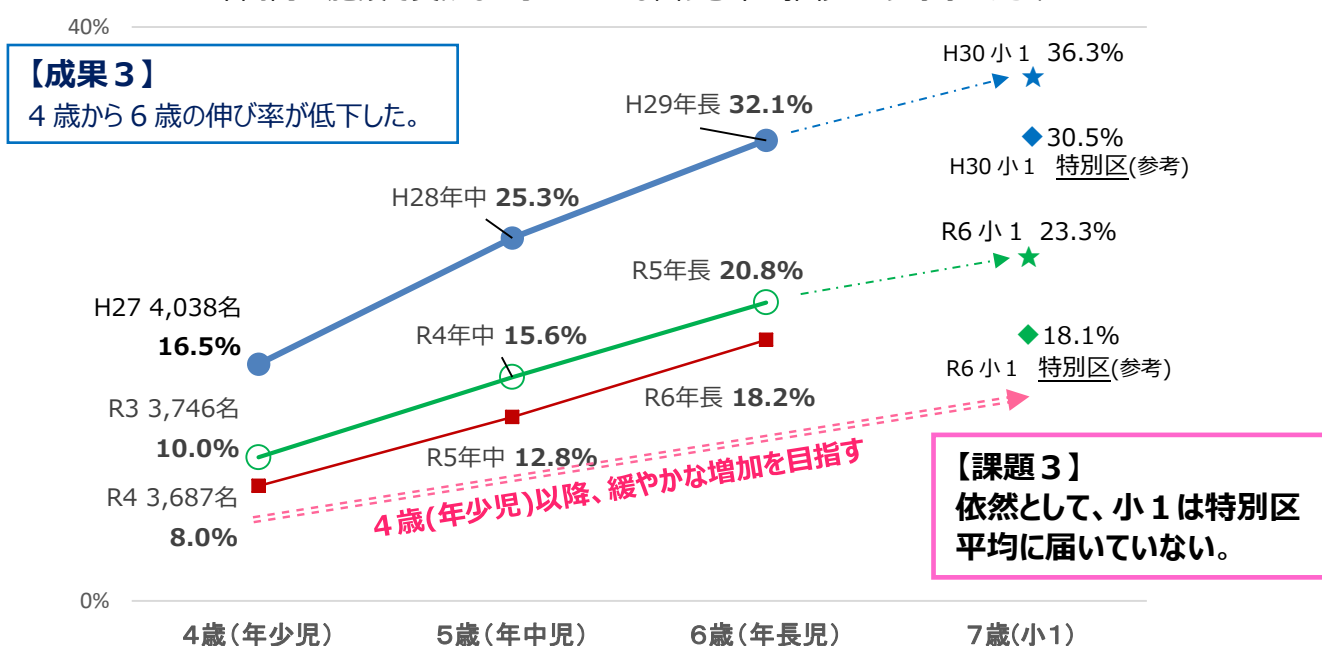
【課題 2】

区内教育・保育施設未通園児の受診率は、30.6%と半数に満たない状況にある。

(2) 4 歳(年少児)から 6 歳(年長児)へのむし歯増加率の変化

4 歳(年少児)から 3 か年同一施設で歯科健診を受けた子どもの結果を繋げて、むし歯の増加率を比較したところ、平成 27 年度より大きく低下している。小学 1 年生のむし歯罹患率を特別区平均まで押し上げるには、4 歳(年少児)から増やさない取組が求められる。

(図 10) 3 年間同一施設で受診した子どものむし歯罹患率の推移 ※参考 小 1 罹患率



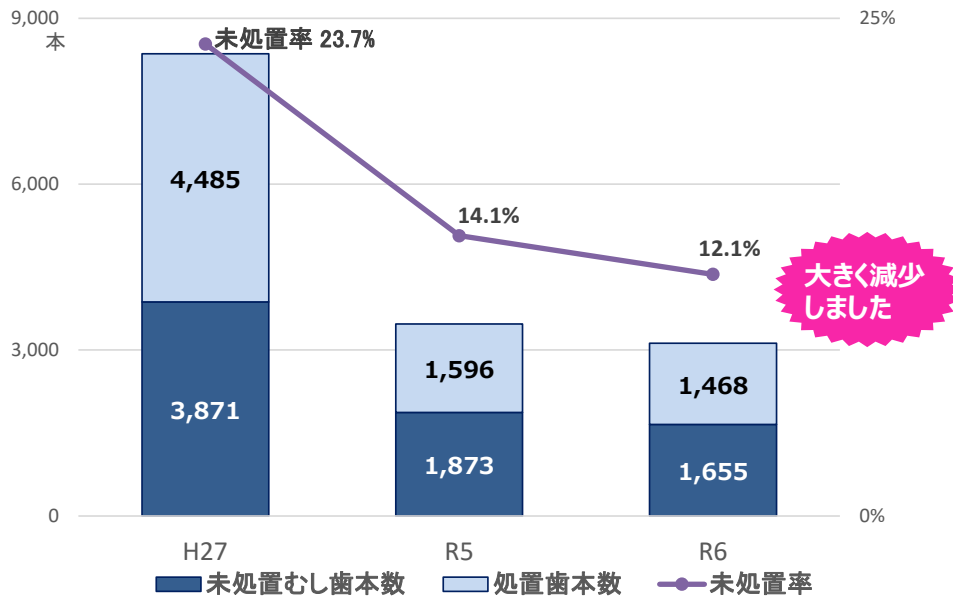
今後の強化
ポイント①

4 歳(年少児)から 5 歳(年中児)のむし歯増加を防ぐ

(3) 未処置のむし歯がある年長児の割合

令和6年度の未処置のむし歯をもつ年長児の割合は、平成27年度から半減し、本数は約6割減少している。「むし歯は治療する」「新たなむし歯をつくらない」ことを基本とし、取組を進める。

(図11) 未処置のむし歯をもつ6歳(年長児)の割合およびむし歯の本数



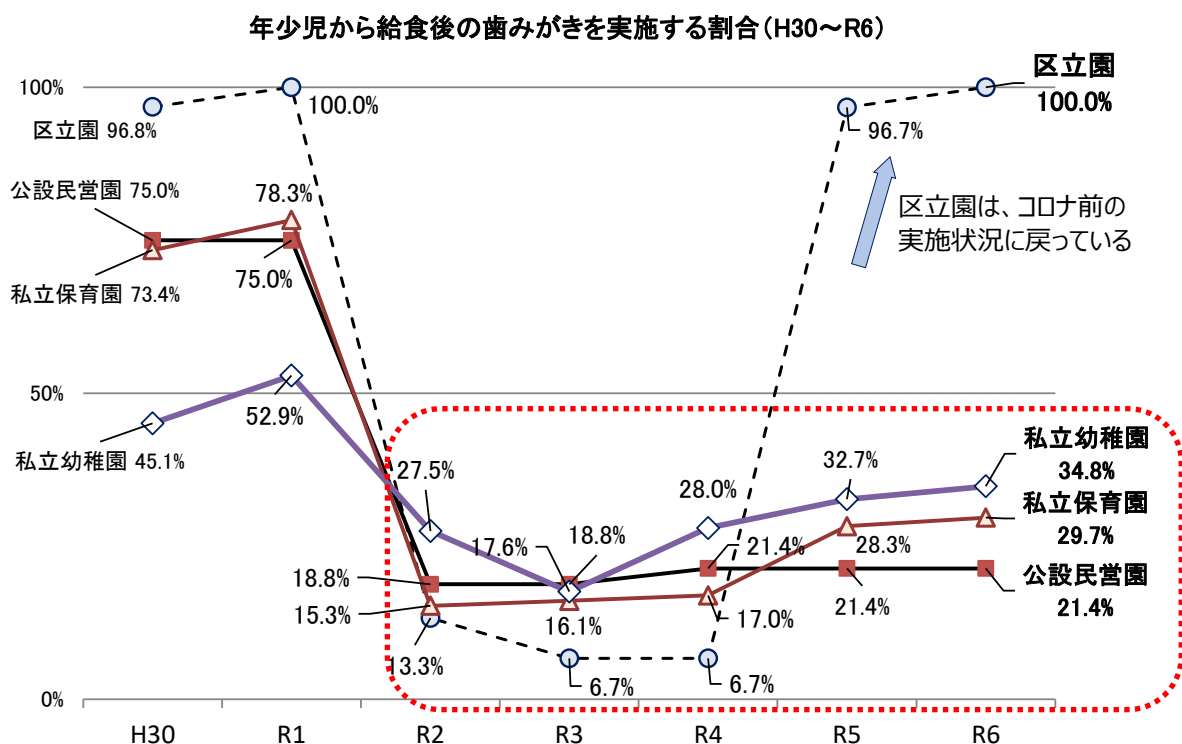
今後の強化
ポイント②

「むし歯は治療する」「新たなむし歯をつくらない」取組の推進

【参考】年少児から給食後の歯みがきをする教育・保育施設の割合

区立園のみ、コロナ禍以前の実施状況に戻っている。

(図12) 【参考】年少児から給食後の歯みがきをする教育・保育施設の割合

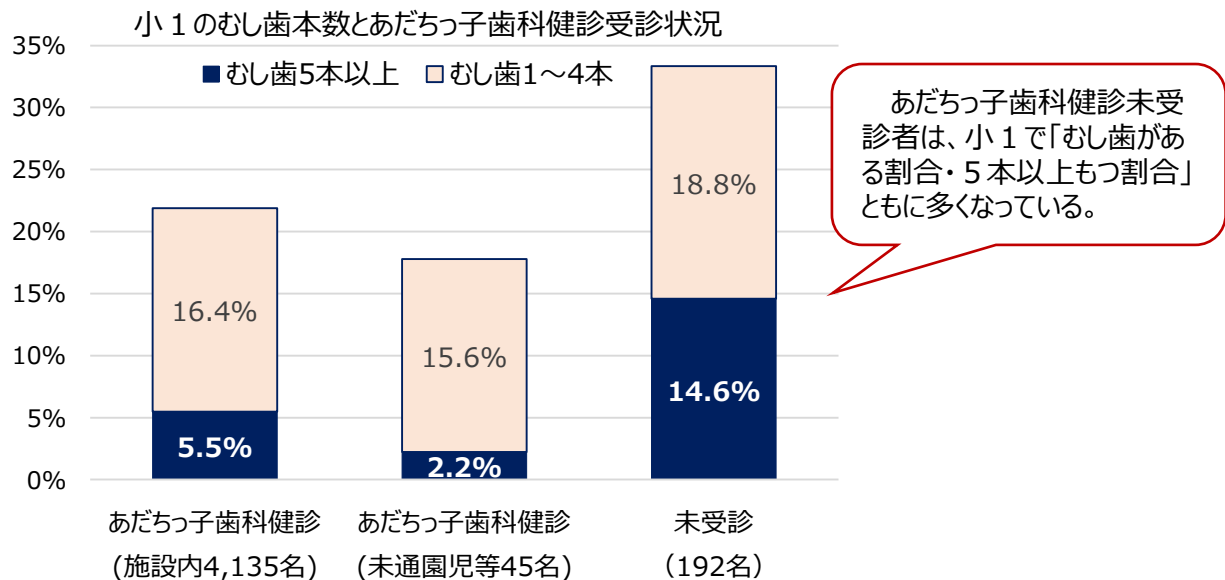


(表1)【参考】特別区のむし歯がある小学1年生の割合

令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
千代田区	21.0%	練馬区	17.6%	千代田区	15.2%	墨田区	15.9%	品川区	12.5%
中野区	22.2%	目黒区	17.9%	品川区	15.9%	練馬区	16.5%	文京区	14.0%
品川区	22.3%	品川区	18.2%	目黒区	16.2%	目黒区	16.8%	練馬区	14.4%
練馬区	22.7%	千代田区	18.3%	練馬区	16.2%	品川区	17.1%	千代田区	14.7%
文京区	23.1%	中野区	19.0%	北区	17.7%	千代田区	17.2%	目黒区	14.7%
世田谷区	23.7%	文京区	19.9%	世田谷区	18.7%	中央区	17.7%	世田谷区	14.9%
墨田区	24.9%	世田谷区	20.4%	中野区	18.7%	世田谷区	18.1%	北区	15.1%
台東区	25.0%	墨田区	21.0%	杉並区	19.6%	文京区	18.9%	墨田区	15.6%
北区	25.5%	中央区	21.1%	文京区	20.1%	板橋区	19.2%	中央区	15.8%
江東区	25.9%	杉並区	23.1%	墨田区	20.3%	北区	19.3%	中野区	16.6%
目黒区	26.2%	港区	23.1%	江東区	20.8%	杉並区	19.3%	江東区	17.2%
中央区	26.9%	板橋区	23.3%	中央区	20.9%	江東区	19.4%	新宿区	17.4%
特別区平均	27.1%	北区	23.3%	特別区平均	21.0%	豊島区	19.5%	板橋区	17.4%
杉並区	27.8%	特別区平均	23.3%	豊島区	21.1%	大田区	20.0%	特別区平均	18.1%
板橋区	28.2%	江東区	23.7%	大田区	21.5%	中野区	20.2%	豊島区	18.9%
大田区	28.4%	豊島区	24.4%	港区	21.6%	特別区平均	20.2%	杉並区	18.9%
渋谷区	29.0%	大田区	25.1%	台東区	21.7%	港区	21.5%	大田区	19.1%
港区	29.1%	荒川区	25.3%	新宿区	21.7%	荒川区	22.2%	港区	19.6%
葛飾区	29.5%	台東区	25.9%	江戸川区	23.8%	台東区	22.2%	台東区	21.0%
豊島区	29.8%	渋谷区	26.0%	板橋区	23.8%	渋谷区	23.1%	渋谷区	22.2%
荒川区	30.1%	江戸川区	26.9%	渋谷区	24.1%	江戸川区	23.3%	江戸川区	23.2%
江戸川区	30.5%	新宿区	27.9%	葛飾区	25.1%	葛飾区	24.7%	足立区	23.3%
足立区	33.1%	足立区	29.2%	荒川区	26.0%	足立区	26.0%	葛飾区	23.6%
新宿区	34.3%	葛飾区	30.3%	足立区	27.6%	新宿区	26.0%	荒川区	24.3%

出典：東京都の学校保健統計書より

(図13)【参考】令和6年度小学1年生の乳歯のむし歯本数と令和5年度あだちっ子歯科健診受診状況



4 令和7年度の主な取組【子ども家庭部、衛生部が連携して取り組む】

課題	対策
(1) 4歳(年少児)から歯科口腔保健対策の強化 【子ども家庭部】	ア 【新】「体験型リーフレット」による啓発 「歯みがき習慣はレジリエンスの向上にも影響すること※1」「フッ化物配合歯みがき剤の使用方法」等、最新情報を盛り込んだ体験型リーフレットを作成・配付する。 ※1 第2期第1回 子どもの健康生活実態調査 報告書(概要版) イ 【強化】教育・保育施設の取組を支援 「年少児から給食後の歯みがき実施」並びに、歯によいおやつ・よく噛む習慣づくりに取り組む教育・保育施設を増やす。 ウ 園歯科医モデル事業(区立保育園7園)の拡充 「あだちっ子・園歯科医モデル事業」の効果的な実施及び事業評価を行い、令和9年度までの全園展開に向けて歯科医師会と調整を進めていく。
(2) 歯科健診結果のお知らせ(全員に配付)を見直す 【子ども家庭部】	【見直し】 予防<新たなむし歯をつくらない>と治療<むし歯は治療する>の重要性が伝わる「結果のお知らせ」に変更する。 合わせて、要治療児が提出する受診報告書に「受診しない理由」を記載する欄を設ける等、治療に繋がらない家庭への支援策を検討していく。
(3) 未通園児等の受診率向上を図る 【子ども家庭部】	あだちっ子歯科健診参加2年目を迎える発達支援施設を支援し、通園児の確実な受診に繋ぐ。 【見直し】 受診率向上を目指し、未通園児に送付する通知をよりわかりやすく変更する。
(4) 最初に生える永久歯の奥歯「6歳臼歯」のむし歯予防を強化 【衛生部】	ア 令和5年度に開始した「6歳児対象 フッ化物塗布事業」の利用率向上に取り組み、健全な6歳臼歯の育成並びに定期管理の推進を図る(R6 9.9%→R7 目標 15%)。 【参考】 定期的にフッ化物塗布を受けている年長児の割合 57.4% (R6 年度 6歳臼歯健康教室保護者アンケート結果) イ 保健センター歯科衛生士による「6歳臼歯健康教室」において、「奥歯みがきと歯によいおやつ」をテーマに、歯みがき体験の実施並びに「10日間チャレンジカード」を活用した習慣づくりに取り組む。

5 「糖尿病対策アクションプラン2－歯科口腔保健対策－」進捗状況

(表2)

		5年度実績 (2023年度)	6年度実績 (2024年度)	R7年度 目標値等	R17年度 目標値等
① あだちっ子歯科健診 受診率向上	施設内健診 未通園児等	98.6% 29.9%	99.2% 24.8%	99.5% 25%	100% 50%
② 受診(治療) 報告書提出率	施設内健診 未通園児等	73.9% 66.7%	75.1% 72.9%	77% 74%	90% 80%
③ むし歯がない子どもの 割合	年長児	78.4%	80.7%	82%	85%
	小学1年生	74.0%	76.7%	75%	85%

－資料編－

1 令和6年度あだちっ子歯科健診の実施結果

（1）参加状況及び実施時期

区内の教育・保育施設に通っていない子ども（以下、「未通園児等」という）に個別に通知を発送している。令和4年度から、未通園児の受診率向上策として、認可外保育施設で歯科健診を開始した。

（表3）

	施設数	参加数	参加率 (R5年度)	実施時期	備考
私立幼稚園・認定こども園	49	49	100% (100%)	令和6年5月～7月	
区立保育園・認定こども園	30	30	100% (100%)		
公設民営園	14	14	100% (100%)		
私立保育園	111	111	100% (100%)		
認証保育所	12	12	100% (100%)		年少児以上が在籍する施設
未通園児等	基準日 R6.9.1 に対象者抽出			令和6年9月～11月	個別通知による勧奨
	認可外保育施設(3園)通所児			令和6年5月～7月	R4年度開始
	発達支援施設(1施設)通所児			令和6年9月～11月	R6年度開始

（2）受診状況【各施設からの集計報告による実績値】

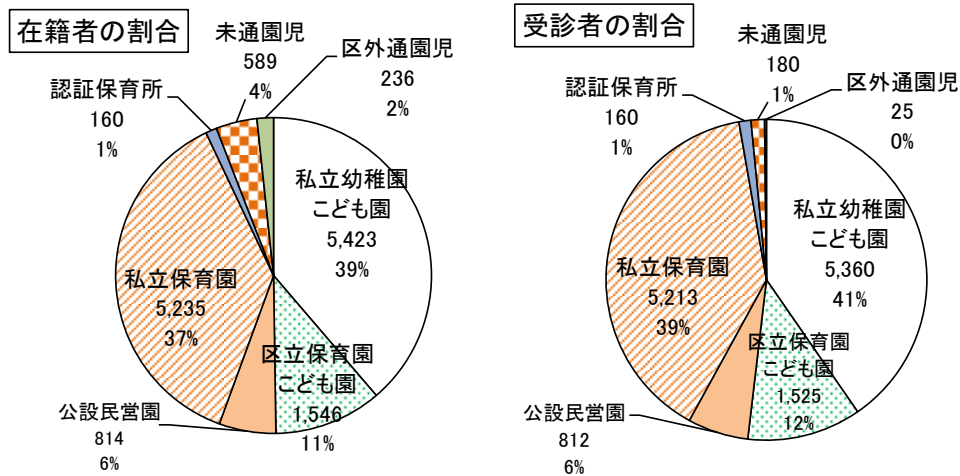
（表4）

※ 在籍者は、区外在住者を含む。未通園児等の在籍者は、対象者数を記載

		年少児(4歳)		年中児(5歳)		年長児(6歳)		合計(人数)		
		在籍者	受診者	在籍者	受診者	在籍者	受診者	在籍者 (R5年度)	受診者 (R5年度)	受診率 (R5年度)
私立幼稚園 認定こども園		1,631	1,604	1,760	1,738	2,032	2,018	5,423 (5,963)	5,360 (5,814)	98.8% (97.5%)
区立保育園 認定こども園		491	481	508	502	547	542	1,546 (1,576)	1,525 (1,558)	98.6% (98.9%)
公設民営園		269	267	266	266	279	279	814 (813)	812 (807)	99.8% (99.3%)
私立保育園		1,740	1,735	1,714	1,705	1,781	1,773	5,235 (5,194)	5,213 (5,170)	99.6% (99.5%)
認証保育所		62	62	52	52	46	46	160 (164)	160 (164)	100.0% (100.0%)
施設通園児 計		4,193	4,149	4,300	4,263	4,685	4,658	13,178 (13,710)	13,070 (13,513)	99.2% (98.6%)
未通園児等	未通園児	212	65	198	61	179	54	589 (576)	180 (172)	30.6% (29.9%)
	(再掲)認可外 保育施設通所	33	32	28	27	26	26	87 (104)	85 (102)	97.7% (98.1%)
	(再掲)発達支 援施設通所	10	10	19	19	15	15	44	44	100.0%
	区外通園児	64	9	80	4	92	12	236 (258)	25 (22)	10.6% (8.5%)
合計 (R5年度)		4,469 (4,555)	4,223 (4,290)	4,578 (4,926)	4,328 (4,657)	4,956 (5,063)	4,724 (4,760)	14,003 (14,544)	13,275 (13,709)	
受診率 (R5年度)		94.5% (94.2%)		94.5% (94.5%)		95.3% (94.0%)		94.8% (94.2%)		

受診者の割合は、私立幼稚園が41%と最も多く、次いで私立保育園が39%と多くなっている。

（図14）在籍者、受診者の割合



（3）未通園児等（認可外保育施設通所児を除く）の未受診理由

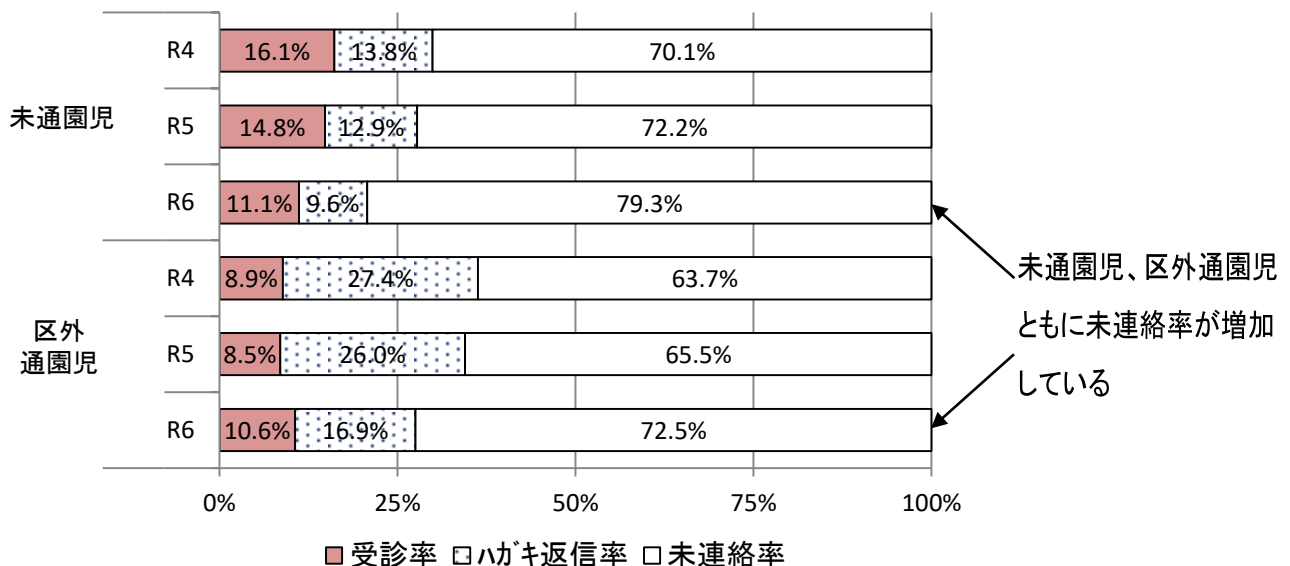
歯科健診の個別通知にアンケートハガキを同封し、健診を希望しない理由等を調査している。令和6年度は、未通園児の9.6%、区外通園児の16.9%から返信があった。

希望しない理由（複数回答可）は、「歯科医院に通院中又は定期チェックを受けている」「通っている施設で受けた」の順に多くなっている。

（表5）

	対象者 (R5 年度)	歯科健診受診		未受診			
		受診者 (R5 年度)	受診率 (R5 年度)	希望しないハガキ		未連絡	
				返信数 (R5 年度)	返信率 (R5 年度)	人数 (R5 年度)	割合 (R5 年度)
未通園児 (認可外を除く)	458 (472)	51 (70)	11.1% (14.8%)	44 (61)	9.6% (12.9%)	363 (341)	79.3% (72.2%)
区外通園児	236 (258)	25 (22)	10.6% (8.5%)	40 (67)	16.9% (26.0%)	171 (169)	72.5% (65.5%)
合計	694 (730)	76 (92)	11.0% (12.6%)	84 (128)	12.1% (17.5%)	534 (510)	76.9% (69.9%)

（図15）歯科健診を希望しない割合（ハガキ返信率）



（４）「足立区保健衛生システム」登録数

受診者のうち、区内在住児の結果を「足立区保健衛生システム」に登録し、分析を行った。システム登録者数は１２，６５３名で、全受診者の９５．３％であった。

（表６） ※ 受診者には区外在住児もいるため、受診者数と登録者数は一致していない。

	年少児（４歳）		年中児（５歳）		年長児（６歳）		システム登録人数合計	
	受診者 (R5 年度)	登録者 (R5 年度)	受診者 (R5 年度)	登録者 (R5 年度)	受診者 (R5 年度)	登録者 (R5 年度)	受診者 (R5 年度)	登録者 (R5 年度)
人数	4,223 (4,320)	4,038 (4,088)	4,328 (4,683)	4,116 (4,448)	4,724 (4,806)	4,499 (4,518)	13,275 (13,809)	12,653 (13,054)
登録率	95.6% (94.6%)		95.1% 95.0%		95.2% (94.0%)		95.3% (94.5%)	

（５）歯科健診分析結果（足立区保健衛生システムに登録した子どもの歯科健診結果）

ア 乳歯にむし歯がある子どもの割合（年齢別）

令和６年度の結果、乳歯にむし歯がある子どもの割合は、全年齢で減少した。

（表７） むし歯がある子どもの割合

	年少児（４歳）			年中児（５歳）			年長児（６歳）		
	受診者	むし歯有	有病率	受診者	むし歯有	有病率	受診者	むし歯有	有病率
平成２７年度	4,829	959	19.9%	4,856	1,473	30.3%	5,014	1,894	37.8%
平成２８年度	4,925	823	16.7%	5,086	1,408	27.7%	4,983	1,903	38.2%
平成２９年度	4,868	719	14.8%	5,058	1,324	26.2%	5,134	1,854	36.1%
平成３０年度	4,945	591	12.0%	4,926	1,080	21.9%	5,057	1,672	33.1%
令和元年度	4,922	536	10.9%	5,004	1,001	20.0%	4,939	1,453	29.4%
令和２年度	4,606	587	12.7%	4,896	965	19.7%	4,981	1,457	29.3%
令和３年度	4,575	465	10.2%	4,633	794	17.1%	4,920	1,175	23.9%
令和４年度	4,444	360	8.1%	4,547	722	15.9%	4,634	1,051	22.7%
令和５年度	4,088	259	6.3%	4,448	608	13.7%	4,518	976	21.6%
令和６年度	4,038	262	6.5%	4,116	522	12.7%	4,499	870	19.3%

イ 乳歯にむし歯がある子どもの割合（施設種別）

施設間の最大値と最小値の差は、年少児が４．７ポイント、年中児５．８ポイント、年長児６．５ポイントと、差が拡大している。

（表８） ※ 認証保育所・未通園児等はサンプル数が少ないため参考値とする（合計は含む）。

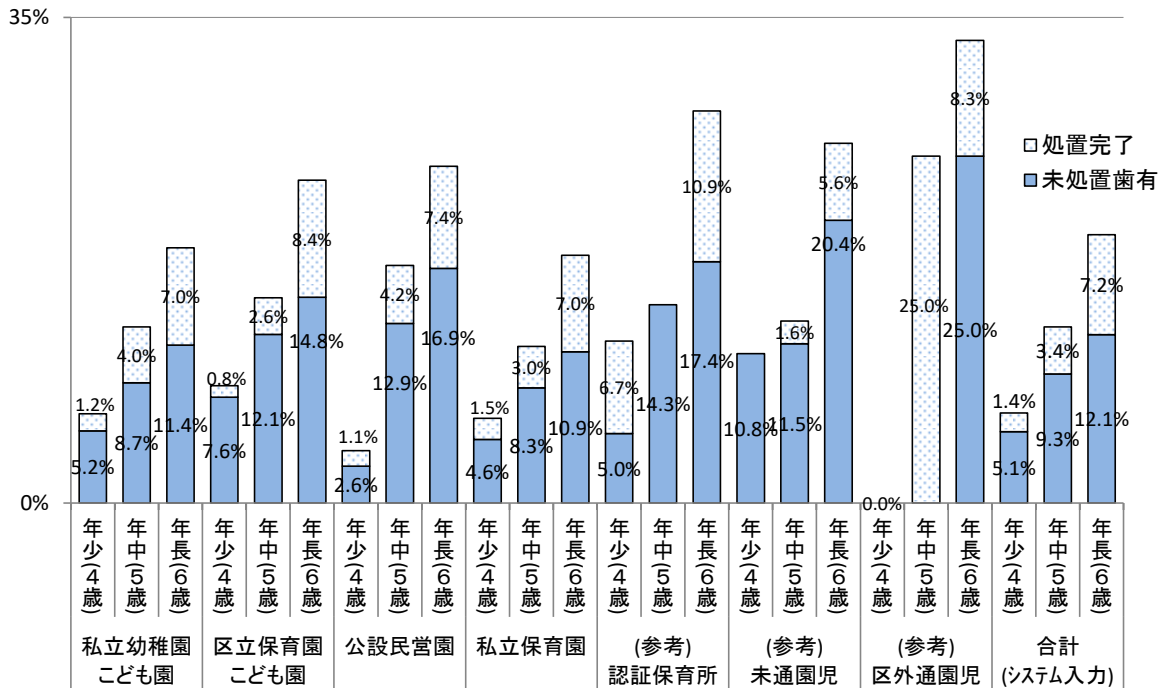
	年少児（４歳）			年中児（５歳）			年長児（６歳）		
	受診者	むし歯有	有病率 (R5 年度)	受診者	むし歯有	有病率 (R5 年度)	受診者	むし歯有	有病率 (R5 年度)
私立幼稚園 認定こども園	1,462	94	6.4% (6.9%)	1,569	199	12.7% (14.3%)	1,828	336	18.4% (20.9%)
区立保育園 認定こども園	473	40	8.5% (7.4%)	494	73	14.8% (13.6%)	533	124	23.3% (21.5%)
公設民営園	265	10	3.8% (7.3%)	263	45	17.1% (13.7%)	272	66	24.3% (23.4%)
私立保育園	1,704	104	6.1% (5.3%)	1,676	189	11.3% (12.4%)	1,754	313	17.8% (22.0%)
(参考)認証保育所	60	7	11.7% (3.3%)	49	7	14.3% (21.6%)	46	13	28.3% (29.8%)
(参考)未通園児	65	7	10.8% (11.1%)	61	8	13.1% (25.0%)	54	14	25.9% (21.3%)
(参考)区外通園児	9	0	0.0% (11.1%)	4	1	25.0% (25.0%)	12	4	33.3% (20.0%)
合計 (R5 年度)	4,038 (4,088)	262 (259)	6.5% (6.3%)	4,116 (4,448)	522 (608)	12.7% (13.7%)	4,499 (4,518)	870 (976)	19.3% (21.6%)

ウ むし歯がある子どもにおける未処置歯保有・処置完了の割合（年齢別・施設種別）

全ての年齢で、未処置のむし歯を有する子の割合が前年度より減少している。

※ 認証保育所・未通園児等はサンプル数が少ないため参考値とする（合計は含む）。

（図16）施設種別等 むし歯がある子どもの割合（未処置歯有、処置完了者の割合）

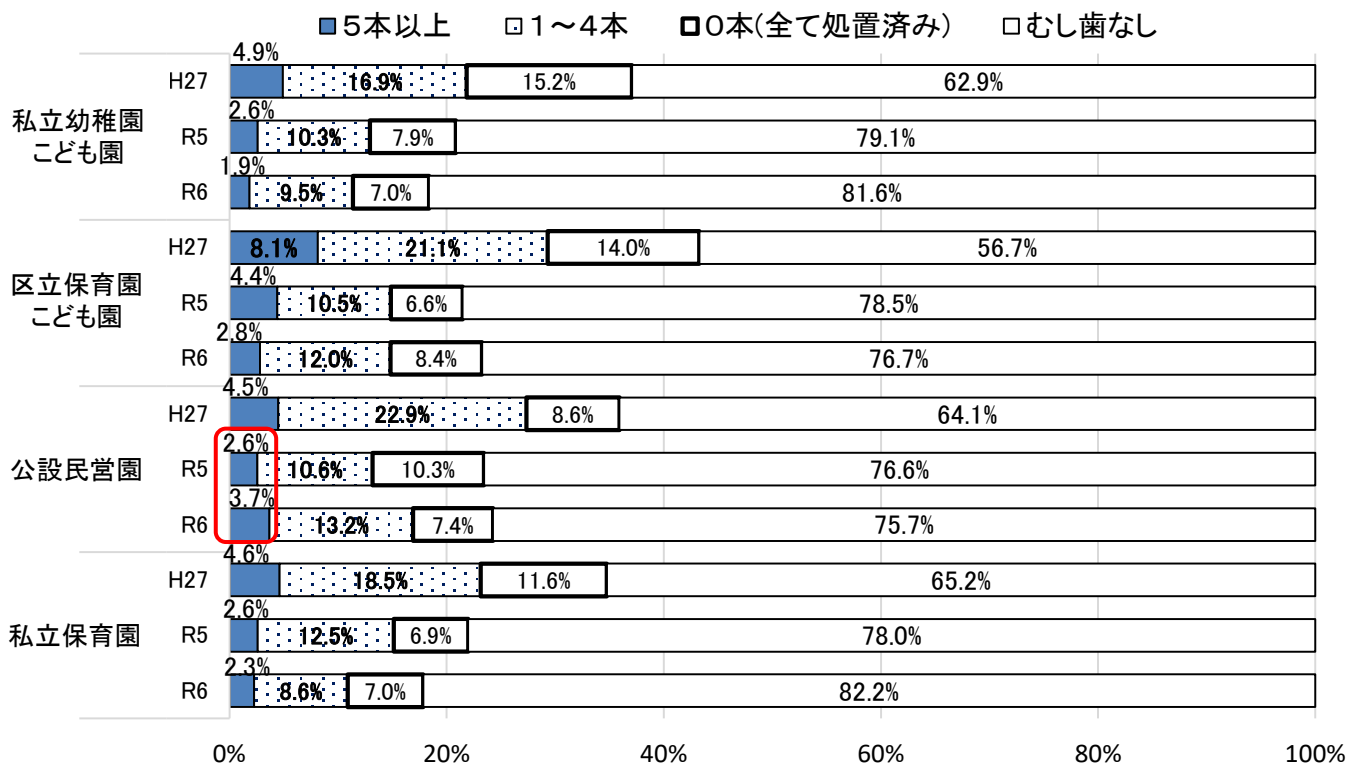


【参考】 5年度(合計)	処置完了率	年少	1.1%	年中	3.8%	年長	7.5%
	未処置歯保有率	年少	5.2%	年中	9.9%	年長	14.1%

エ 施設種別・乳歯に5本以上未処置のむし歯をもつ年長児の割合

5本以上未処置のむし歯をもつ年長児の割合は、公設民営園が1.1ポイント増加している。

（図17）【年長】施設種別・5本以上未処置のむし歯がある子どもの割合(H27・R5・R6年度比)



オ 受診報告書の提出状況【施設からの集計報告による実績値】

歯科健診後に、治療・相談が必要な子ども（※1）に対し、保護者が歯科医療機関を受診した結果が、教育・保育施設より受診報告書として提出されている（※2）。

なお、未通園児等の受診報告は、保護者から区に直接ハガキで報告する方法を採用している（※3）。

令和6年度における受診報告書の提出率の平均は75.1%で、5年度と比べて4.6ポイント増加した。

※1 未処置のむし歯（C）及びむし歯になりそうな歯（CO）がある又は歯肉、歯垢、かみ合わせで治療・相談が必要な子ども

※2 概ね歯科健診から2か月程度経過した時点での報告率

※3 未通園児等は、サンプル数が少ないため、参考値とする（合計には含む）。

（表9）

		年少児（4歳）		年中児（5歳）		年長児（6歳）		合計（人数）		
		発行数	報告数	発行数	報告数	発行数	報告数	発行数 （R5年度）	報告数 （R5年度）	報告率 （R5年度）
私立幼稚園 認定こども園		201	137	287	176	403	256	891 (1,160)	569 (723)	63.9% (62.3%)
区立保育園 認定こども園		89	69	120	101	157	121	366 (341)	291 (261)	79.5% (76.5%)
公設民営園		31	27	48	38	73	51	152 (169)	116 (129)	76.3% (76.3%)
私立保育園		216	182	276	234	395	334	887 (906)	750 (715)	84.6% (78.9%)
認証保育所		12	8	19	15	13	9	44 (47)	32 (42)	72.7% (89.4%)
未通 園児 等	未通園児 ※認可外等含む	16	9	16	13	17	13	49 (56)	35 (23)	71.4% (41.1%)
	区外通園児	3	2	2	2	5	4	10 (12)	8 (3)	80.0% (25.0%)
合計 （R5年度）		568 (645)	434 (438)	768 (896)	579 (635)	1,063 (1,150)	788 (823)	2,399 (2,691)	1,801 (1,896)	
報告率 （R5年度）		76.4% (67.9%)		75.4% (70.9%)		74.1% (71.6%)		75.1% (70.5%)		

2 あだちっ子歯科健診の概要

（1）目的

「足立区糖尿病対策アクションプランー歯科口腔保健対策編ー」の一環として、むし歯が増えやすい年少児（4歳）から年長児（6歳）を対象に、（公社）東京都足立区歯科医師会、各保育施設、認定こども園、私立幼稚園等が連携・協調しながら、①統一基準の歯科健診、②丁寧な受診勧奨、③集計・分析・フィードバックをセットにした「あだちっ子歯科健診」を実施し、むし歯予防及び早期の治療に繋げる取組を進めている。

【あだちっ子歯科健診のポイント】

- ① 統一基準（帳票、健診基準等）の歯科健診を実施
- ② 健診後、歯科受診が必要な子どもの保護者に丁寧な受診勧奨を実施
- ③ 歯科健診結果の集計・分析・フィードバック

(2) 対象者

通園の有無に関わらず、全ての年少児(4歳)～年長児(6歳)

※ 区内の保育施設、認定こども園、私立幼稚園においては、在籍する区外在住者も含めて実施

(3) 実施方法及び今後の目標

ア 統一基準の歯科健診

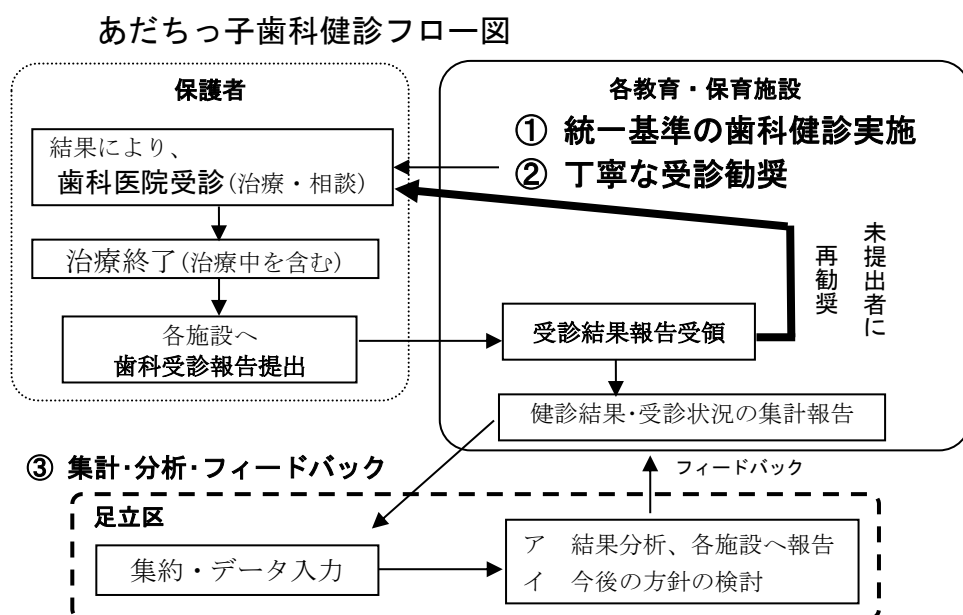
足立区歯科医師会に委託(区立認定こども園のみ嘱託医)し、施設及び会員歯科診療所で歯科健診を実施する。足立区歯科医師会の協力のもと、施設内健診、会員診療所での未受診者健診等を行い、受診率向上を目指している。

イ 受診勧奨

各保育施設・認定こども園・私立幼稚園の協力のもと、保護者への丁寧な受診勧奨と受診報告書の確認をすることで、未治療の子どもの数を減らしていく。

ウ 結果集計・分析・フィードバックと役割分担

各施設から歯科健診結果報告を受け、区は個人情報の適正な管理のもと足立区保健衛生システムに登録の上、集計・分析を行う。分析結果から、園児や保護者が望ましい生活習慣を獲得できるよう、効果的な「歯・口の健康づくりの取組」を検討・実施する。



【問合せ先】

足立区教育委員会事務局 子ども家庭部
子ども政策課子ども施策推進担当
TEL 03-3880-5266



区オリジナル・奥歯のはみがき
キャラクター「おくばちゃん」